

東地申第1号

12月6日 第2回交渉—その3

「JR東労組東京地本第34回定期大会発言」に基づく申し入れ

第5項で以下の点を指摘!

- ① 直ちにプレス発表を行うこと!
- ② 会社は「安全上問題ない」と主張するが、社内規程に違反しており、今事象は明らかな隠ぺい・改ざんだ!
- ③ 保管期間が8年であり、8年分のチェックシートしか残っていない。その前から改ざんされていたことは明らかだ!
- ④ チェックシートは管理者が判を押している。会社として気づかなかった訳ではない!
- ⑤ プレス機の不具合も当初からメーカーを呼んで議論していたはずだ。組合は改ざんが行われた事実を把握している。神戸製鋼や東しでも1年前から改ざんが行われていたことを知っていたながら隠していた。会社が行っている行為は全く同じだ!
- ⑥ 個人の責任ではなく、会社組織の問題である。データを書き替えたという行為は改ざんであることを受け止めなければ、同じことが繰り返される!



チェックシートの書き替えは、明らかに隠ぺい・改ざんだ!
今回の事象は組織事故であり、真実を明らかにするべきだ! **第5項終了!**

6. 四季島運行に伴い、現場に負担をかける見送り体制等の業務変更を解消すること。また、お客さまに対する偏ったおもてなしを改め、平等な対応を行うこと。

会社回答 おもてなし対応については基本的に継続していく考えであるが、お客さまの声等を踏まえて必要な見直しを実施していく。

主な議論内容

組合 四季島の見送りで現場に負担がかかり、その弊害が起きている。上野駅では見送り体制を取るために朝の点呼時間が短く、四季島が運行しない時は所定の時間で点呼を行っている。また、車イスのお客さまを30分もお待たせした。何故そのようなことになるのか。偏ったおもてなしで、業務に支障が出て疎かになっている。

会社 朝の点呼は、日によって伝達事項がありケースバイケースだ。中身は異なるが伝えるべきことは伝えるようにしている。四季島は注目されており、出発駅で盛り上げるために行っている。見送りに伴って車イスのお客さまをお待たせしたことは好ましくなかった。

組合 駅・お客さまへの安全、サービスが欠落している。一部のお客さまにしかサービスが行き届かないことに危惧をしている。これはお客さまへの差別だ。

会社 改善すべきことは改善している。四季島は会社にとって新たな商品であり、価値の創出が必要だ。出発時の見送りは付加価値を与える。お客さまに感動を与えるものから、今後も継続していく考えだ。

組合 会社は「行きたい人が行く。希望を募る」と言うが、職場では日勤勤務で行かざるを得ない状況になっている。管理者から「なぜ行かないのか。あなたは1回しか行っていない。行けるように業務を調整して下さい」と言われており、見送りに行くことを強いられるために超勤が発生している。事務機能も停止しているのが現実だ。

会社に指摘!

偏ったおもてなしで現場に負担がかかり業務に支障が出ている!

第6項で以下の点を指摘!

第6項終了!

- ① 四季島の見送りで超勤が発生しているが、実態は36で示してもらいたい。
- ② お客さまへのサービスは分け隔てなく平等に行うべきだ。
- ③ 会社は「規模感はない」と言うが、現場では「Q&A」に基づいて対応している。お客さま観点ではなく社員管理のための見送りでしかない。
- ④ 見送りのために「超勤が発生している」と職場から声が上がっている。会社はどのようなことが感動を与えることなのか受け止めるべきだ。やらなければいけないことはまだまだある!

四季島の見送りは偏ったおもてなしであり、社員管理のための見送りは認められぬ!!
会社はやらなければいけないことがまだまだあることを認識し、改めるべきだ!

その4へつづく!